

講義名	ファッション文化論		
科目区分	学部フリーゾーン		
担当教員	野口 正孝		
開講期・曜日・時限	前期 木曜日 1時限	授業形態	
	2018年度 人間社会学部 人間健康学科 スポーツ健康コース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 健康マネジメントコース / 2018年度 人間社会学部 人間健康学科 / 2018年度 人間社会学部 観光学科 ホテル・ブライダルコース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 観光事業コース / 2018年度 人間社会学部 観光学科 /		
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

ファッションとは狭義の意味においてはアパレル=衣服を表しますが、広義の意味において、衣服だけに留まらず、バッグやアクセサリーなどのスタイリングアイテム、ファッション雑貨も含めて表すのが一般的です。また、ファッションを身体装飾としてとらえると、化粧やタトゥー、ピアッシングなどの身体に直接装飾することもファッションに含まれることができます。

神戸市は1978年、日本で初めてファッション都市宣言（ファッション都市化構想）をしました。その中で神戸市は、ファッションを生活に潤いを与える衣・食・住・遊にわたる生活文化として定義しました。

ファッション文化の形成には、時代の背景や美意識、生活意識やライフスタイルが密接に関係しています。本講義では、この脈絡の中でファッションはどのような特性をもってこれまで変化し、今後とも変化していくのか、生活文化としてのファッションの視点で考察します。

到達目標

今日の高度情報化社会において、人びとの文化志向によるライフスタイルの変化、多様化は著しいものです。本講義においては、嗜好変化の激しいファッションを表面的に捉えるのではなく、人と生活、芸術・文化への関わりの中で体系的にファッション文化として捉えて分析、考察することを目的とします。多様なメディアであふれるファッション情報に振り回されるのではなく、その動向を短期的な流行や嗜好に溺れず、背景を分析し、客観的で冷静に捉える意識を培います。

提出課題

毎回の授業の要点、ファッション文化に関わるトピックスをテーマに基づいて考察する小レポート、およびレポート試験の提出

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

各授業の始めには各種メディアで紹介されるファッション文化に関わるトピックスを紹介する時間を設けます。その中で、前回到提出された小レポートで興味深いものを紹介し、コメントを加えます。

評価の基準

小レポート：50%、レポート試験：50%
レポートにおいては、独自の視点を高く評価します。

履修にあたっての注意・助言他

ファッション動向だけに絞らずに社会の変化を肌で感じ取るため、各種メディアにアンテナを向け、情報収集を日常的に行ってください。

教科書

プリント資料及び参考文献

講義の都度、レジュメを配布する。関連画像をパワーポイントで説明し、抜粋ビデオも上映します。
参考文献：「世界服飾史」深井晃子著 美術出版社、「ちくはくな身体」鷹田清一著 筑摩書房

- 授業計画**
- 1.オリエンテーション：生活文化としてのファッション
 - 2.服飾史にみる衣服デザインの変遷1：古代、中世
 - 3.服飾史にみる衣服デザインの変遷2：近世、近代
 - 4.服飾史にみる衣服デザインの変遷3：現代1（現代ファッションの芽生え）
 - 5.服飾史にみる衣服デザインの変遷4：現代2（モダニズム）
 - 6.服飾史にみる衣服デザインの変遷5：現代3（ポスト・モダニズム）
 - 7.日本における洋装文化の変遷：明治、大正、昭和、平成
 - 8.ファッション文化2：セクシャリティとジェンダー
 - 9.ファッション文化3：再広（世界標準服）
 - 10.ファッション文化4：ジーンズとジャケット
 - 11.ファッション文化5：ブランド（ファッション・システム）
 - 12.ファッション文化6：ファッションカラー（どのようにして流行は作られるのか）
 - 13.ファッション文化7：アイデンティティとしてのファッション
 - 14.ファッション文化8：ストリートファッション
 - 15.まとめ

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）
イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート
エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション
カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

各授業で講義したテーマ、および内容のポイントをキーワード化し、今日のファッションにおいてどのように具体的に現れているのか、各種メディアで確認してください。30分程度。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験あり。
アパレルメーカーにおいて流行を作り出す専門家として得た経験から、「プロダクトアウト」と「マーケットイン」の両方の視点から今日のファッション文化をかみ砕いて解説します。

備考